

## 第4学年5組 社会科指導案

### 1 小単元名 「ごみとすみよいくらし」

### 2 小単元について

本小単元は、学習指導要領の目標（1）「地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るための諸活動について理解できるようにし、地域社会の一員としての自覚をもつようにする。」に該当する。内容（3）のア「廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわり」とイ「これらの対策や事業は計画的、協力的にすすめられていること。」の学習を通して、廃棄物の処理にかかわる対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考えることができるようにする。

これまでに子供たちは、小単元「水はどこから」で、家庭での水の使われ方について話し合ったり、柏井浄水場の見学をしたりして、健康で住みよい暮らしを支えている仕組みや工夫を学習した。生活に欠かせない水のつくられ方や送られ方、そして様々な地域で使う水を大切にしていかななくてはならないことを理解することができた。その後、学習したことを基に自分ができる節水方法やこれからの水の有効利用について、意見を交換することができた。しかし、子供たちの様子からは自ら実際に水を大切にしようと思ったり、呼び掛けたりするような姿はほとんど見られていない。水を大切に扱わなくてはならないという知識は身に付けることはできたが、その知識を身に付ける過程で自分たちとの生活と関連しているという認識が弱かったためではないかと考える。

本学級では、社会科の学習に意欲的に取組、課題に対して気付いたことを積極的に発表している。社会生活のルールや用語を知っている子供たちも多い。しかし、そのルールや用語が自分たちの生活とどのように関連しているのか理解している子供たちは少ない。自分たちが出したごみを処理したり減らしたりしている対策や事業と自分たちとの生活のつながりに気付かせ、自分たちも地域社会を担う一員であるという意識を持たせたい。

現在千葉市では、ごみ処理に関して、北谷津清掃工場が廃止となり市全体で処理できるごみの量が減少したり、ごみを埋める最終処分場の残りがわずかになってきたりなどの課題がある。これは子供たちにとって他人事ではなく自分たちが暮らしている街、つまり自分たち自身に関わる課題なのである。そこで、本小単元は、地域の人々の生活にとって必要なごみの処理について、清掃工場を見学したり、ガイドブックを活用したりして調べさせる。これらの事業が地域の人々や自分たちの健康な生活や良好な生活環境の維持に役立っていること、ごみの処理が自分たちの生活や産業と深くかかわっていること、その事業が計画的、協力的に進められていることに気付かせていく。

単元を通して、自分たちの生活とごみ処理との結びつきを感じられるようにするため、教室にごみ分別用の箱を用意して自分たちで常に分別できるようにしたり、学区のごみステーションや学校内でのごみ収集の様子を提示したりして自分たちが出したごみの処理について注目させるようにする。また、実際に収集作業員の方、リサイクルセンターで働いている方、市役所の方のインタビューの様子を見せ、効率的にごみを収集したり、ごみを減らす工夫や努力をしたりしていることを知らせる。さらに、地域社会の一員としてごみの減量やリサイクルなど自分たちにできることを考えさせ、進んで実践しようとする意識を持たせ、社会に参画する態度を養いたい。

### 3 子供の実態（男子 17名 女子 16名 計 33名）

#### 【子供の生活とごみのかかわり】

1	家のごみを自分で出したことがありますか。 ある…28人（85%） ない…5人（15%）
2	分けたごみにはどのような種類がありますか。 分別の種類、曜日を一部答えることができた…29人（88%） わからない…4人（12%）
3	家のごみはどうやって出すか知っていますか。 知っている…24人（73%） 〔ごみステーションにすてる…11人 分別して出す…9人 指定の袋に入れる…4人〕 知らない・わからない…9人（17%）

ごみを出したことのある割合は全体の85%とほとんどの子供がごみ出しの経験があった。しかし、ごみを出す決まりを把握している子供はおらず、あまり知らないという回答がほとんどであった。また、子供たちに聞いてみたところ、日常にごみ出しをしているわけではないことが分かった。このことから、ごみに対して関心が高くないことが分かったので関心を持てるような手立てを講じたい。

#### 【ごみ処理に対する知識】

4	家が出したごみは、だれが運んでいると思いますか。 ごみ収集車の運転手…25人（76%） 家の人…3人（9%） わからない…5人（15%）
5	家が出したごみは、どこに行くと思いますか。 ごみ処理場、清掃工場…9人（27%） リサイクル工場…4人（12%） ごみ捨て場…4人（12%） その他…10人（31%） わからない…6人（18%）
6	リサイクルという言葉を知っていますか。 知っている…32人（97%） 知らない…1人（3%）
7	リサイクルとはどんな意味ですか。 ペットボトルなどをほかのものにする…2人（6%） 違うものに変えて使うこと…1人（3%） 使ったものを新しく変える…1人（3%） ごみを溶かして新しく作る…1人（3%） 見当違い、知らない…28人（85%）
8	資源物にはどんなごみを出すか知っていますか。 知っている…4人（12%） 〔発泡スチール…1人 紙類…1人 ダンボール…1人〕 知らない…29人（88%）

家を出したごみは、だれが運んでいるかという質問には約8割の子供がごみ収集車の運転手と答えた。しかし、出たごみがどこに行くかという質問には約半数がわからない、見当はずれの回答をしていた。半数近くの子供たちのごみ処理に関する知識がごみステーションにごみを出したところで止まってしまい、それ以降の流れを知らないことが分かった。子供たちにとってごみ処理は自分がごみを出したところで終わり、それ以降は他人任せになっていると考えられる。ごみ処理に関する対策や事業に努めている人たちの存在やその働き、そして自分も住みよい暮らしを作っていくため地域社会の一員であるという認識をこの単元で深めていくことが必要である。

「リサイクル」という言葉を聞いたことがある割合は約100%で、子供たちは生活の中で一度は耳にしている。しかし、リサイクルの意味を正しく把握している子供は少なく、資源物の種類も知らない子供も多い。単元を通して、ごみの再利用に関する知識を定着させつつ、リサイクルはごみの量を減少させる身近な有効手段であることを子供たちに感じ取らせていく。

### 【社会に参画する意識】

9 あなたは自分の家でごみを少なくするために工夫していることはありますか。

はい…12人 (36%)

〔 余分なものは買わない…4人 使えるものは捨てない…3人 手作りでおもちゃを作る…3人  
リサイクル…2人

いいえ…21人 (64%)

ごみを減らす実践をしていない子供は64%という半数以上の割合であった。ごみが増え続けると、住みよい生活を送れないという危機感を持っていかなかったり、ごみを減らしていく方法を知らなかったりするため、行動に移すことができないと考えられる。

そこで、千葉市では最終処分場の半分が埋まってしまったり、清掃工場が2か所に減りごみを処理できる場所が減ったりしているという課題を掴ませる。その解決策として、リサイクルが行われていることやごみ指定袋の手数料化などが取り組まれていることを知らせる。そうすることで、ごみの量を減らすために自分たちにもできることを進んで考え、行動に移せるようになることを考える。

### 【社会科学習を進める力】

10 社会科のどんな学習方法が好きですか。

見学…28人 (85%) 本で調べる…12人 (36%) インターネットや映像で調べる…24人 (73%)

人に聞く…9人 (27%) グループで調べる…26人 (79%) 一人で調べる…2人 (6%)

教科書中心の学習…7人 (21%) グループでまとめる…23人 (70%)

一人でまとめる…2人 (6%) 調べたことを発表する…14人 (42%)

11 友だちと話し合うことで、自分の考えはどのように変わりますか。

友だちの意見を聞いて考えが変わる…17人 (52%) 考えに自信がもてるようになる…9人 (27%)

考えを深めることができる…4人 (12%) 変わらない…1人 (3%) わからない…2人 (6%)

12 社会科の学習は、どんなことに生かせると思いますか。

今やこれからの自分の生活を良くすることができる…15人 (45%)

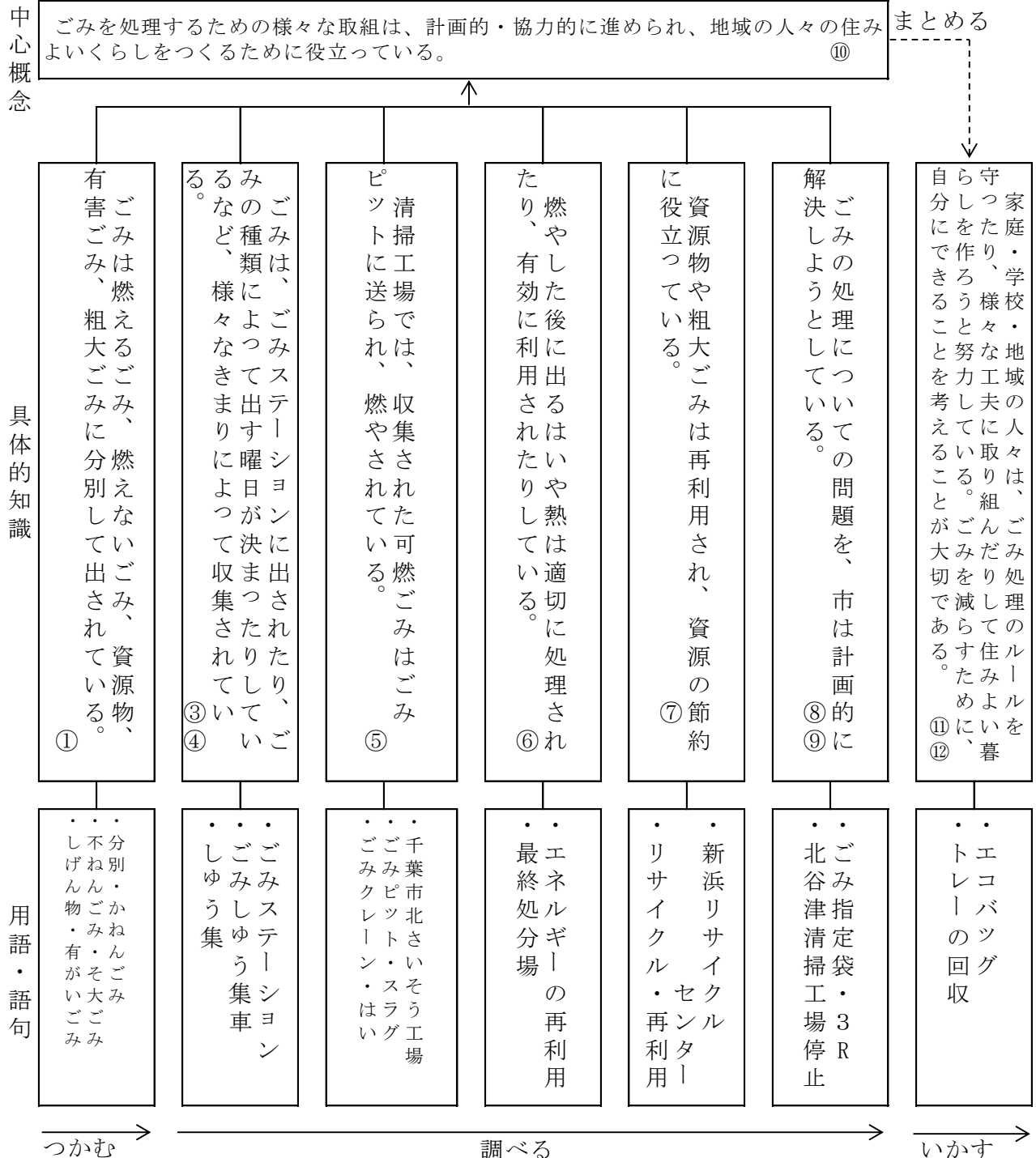
身の回りや将来の社会を良くすることができる…13人 (39%)

今後の学習に…1人 (3%) わからない…4人 (12%)

子供たちは、1の結果から、人に聞いたり、一人で学習内容をまとめたりする方法に対して消極的であることが分かった。しかし、本単元の内容の一部である「働いている人々の思いや願い」を理解するには、清掃工場やリサイクルセンターなどで働いている人の話が最も説得力があると考えられる。子供たちには、働いている人の話を聞く際に、「ごみを減らすために努力や工夫をしていることは何なのか」「どんな思いで働いているのか」など視点を明確化させ、課題解決に必要な情報を得て疑問を解決できる経験を積ませていく。友達と話し合うことで自分の意見に自信を持ったり、他の考え方にも気付いたりする子供の割合も高いため、互いに意見を交流する場を設け、ごみ処理における決まりや取組、それらが自分たちの良好な生活と関係していることを理解させていく。

質問12では、「身の回りや将来の社会を良くすることができる」、「今やこれからの自分の生活を良くすることができる」と感じている子供の割合は半数を下回っていた。学習で学んだことと自分たちの生活が結びついていないためであると考えられる。実際に自分たちが出したごみを分させたり、自分たちが暮らしている千葉市の抱えているごみ処理に関する課題を知らせたりすることで、学んだことが他人事ではなく、自分たちの生活に深く関わっていることを理解させていく。

4 小単元 知識の構造図



\*②は学習計画を立てるため欠番。⑤は見学の間とする。(校内事情により事前に終えている。)

## 5 小単元の目標

- ごみの処理や利用にかかわる事業に関心を持ち、ごみの処理や再生が自分たちの生活と深くかかわっていること、その事業が計画的、協力的に進められていることを理解する。また、それらが地域の人々の良好な生活環境の維持に役立っていることを理解する。さらに、地域社会の一員としてごみの減量やリサイクルなど自分たちにできることを考えようとしている。
- ごみ処理に関する疑問から学習問題を見出し、施設を見学したり、資料を活用したりして調べたことをノートにまとめることを通して、その事業が地域の生活の維持に役立っていることを自分たちの生活と関連付けて考え、適切に表現する。

## 6 小単元の評価規準

観点	評価規準
社会的事象への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ごみの処理にかかわる事業に関心を持ち、意欲的に調べている。</li> <li>○ 地域社会の一員として、ごみの減量や資源の再利用に協力しようと考えている。</li> </ul>
社会的な思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ごみの処理にかかわる事業について、学習問題や予想、学習計画を考えている。</li> <li>○ ごみの処理にかかわる事業が、地域の人々の良好な生活環境の維持に役立っていることを、自分たちの生活と関連付けて考え、適切に表現している。</li> </ul>
観察・資料活用の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施設を観点に基づいて見学・聞き取り調査を行ったり、地図や統計などの資料を活用したりして、ごみの処理にかかわる事業について必要な情報を集め、読み取っている。</li> <li>○ 調べたことをノートにまとめている。</li> </ul>
社会的事象についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ごみの処理と自分たちの生活とのかかわりを理解している。</li> <li>○ ごみの処理にかかわる事業は計画的、協力的に進められ、地域の人々の良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。</li> </ul>

## 7 小単元の指導計画 (11時間扱い)

次	時配	児童の主な学習活動
つかむ	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家庭で出るごみの種類やどのようにごみを出しているのかを知り、気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 可燃ごみや不燃ごみなどに分けられている。</li> <li>・ ごみの種類によって出す曜日が違う。</li> <li>・ 決まった袋に入れてごみを出している。</li> </ul> </li> </ul> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>学習問題</b> わたしたちのくらしから出るごみは、どのように処理されるだろうか。</p> </div>
調べ	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習問題に対して予想し、学習計画を立てる。</li> </ul>

る	3	○ 出されたごみがどのように収集されるのか調べる。
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ごみの収集には、収集車が利用されている。</li> <li>・ 分別されたごみを収集している。</li> </ul>
	5	○ 北清掃工場でのごみが処理される様子について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 可燃ごみは清掃工場に運ばれる。</li> <li>・ 大きなクレーンや焼却炉がある。</li> </ul>
	6	○ 燃やした後に残る灰の処理やごみを燃やした時の熱の利用について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 処分場に埋め立てられる。</li> <li>・ 温水プールや浴場に使われる。</li> </ul>
	7 本時	○ 資源物や粗大ごみのリサイクルについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ びんやペットボトルは新浜リサイクルセンターに運ばれる。</li> <li>・ 粗大ごみも使えるものは修理して再利用される。</li> </ul>
	8 9	○ ごみを減らすための千葉市の取組について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 千葉市には、最終処分場があと半分しか残っていなかったり、ごみの分別をしていない人がいたりするなどの問題がある。</li> <li>・ 千葉市は、ごみを減らすために「ちばルール」を作成し計画的に取り組んでいる。</li> </ul>
ま と め	10	○ これまでの学習で分かったことや考えたことを発表し合い、学習問題に対するまとめを考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ごみの処理にはいろいろな工夫がある。</li> <li>・ 再利用できるものはごみ減らすことにつながっていた。</li> <li>・ 千葉市では、様々な取組でごみを減らす取組をしている。</li> <li>・ いろいろな人が町をきれいにするために努力している。</li> </ul> <div style="border: 3px double black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>まとめ</b></p> <p>わたしたちが出したごみは、ごみ収集の人や清掃工場、新浜リサイクルセンター、千葉市の様々な取組によって処理されている。それは、わたしたちの町がいつもきれいに保っていることに役立っている。</p> </div>
い か す	11 12	○ ごみを減らすために家庭や学校でできることを考え、発表し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ お手伝いで買い物をするときには、エコバッグを使うようにする。</li> <li>・ 学校でもごみの分別を呼びかける。</li> <li>・ ごみを減らすために3Rをポスターで学校のみんなに伝える。</li> </ul>

## 8 市教研社会科部会研究主題解明のための方策

研究主題：「変貌する未来を切り拓く社会科学習」

～手応えの発見につながる『深い学び』の探求～

〈本年度主題解明のための方策〉

- ①「深い学び」の基盤となる、学習内容の工夫
- ②社会的な見方・考え方をはたらかせる学習課程の工夫
- ③生徒や授業者が「手応えの発見」につながったかを見取る評価方法の工夫

本単元では、上記の中から次の点に留意して指導及び評価に取り組んでいきたい。

### ①「深い学び」の基盤となる、学習内容の工夫

本単元では、ごみを処理する仕組みやその事業に携わっている人たちの努力や工夫を理解させる。子供たちが、地域社会の一員として進んでごみを減らそうとする意識を持たせることが狙いである。そのために、子供が学習を通して、ごみ処理に関して「表面的に分かった」ではなく、「自分の生活との結びつきによる分かった」となるが必要である。よって、単元を通して学んだごみ処理と自分たちの生活との結びつきを理解できるような深い学びを以下の2点の取組から迫っていく。

#### (1) 単元を通して日常的に実践できる取組

実態からも分かる通り、ごみを減らす方法を知っている子供は少ない。方法を知らなければ取り組みないし、また、減らした実感を持たなければ日常にごみを減らそうという意識を持たないだろう。そこで、子供たちが、単元を通して学んだごみの分別を実践できる環境を用意する。

教室内に可燃ごみ、不燃ごみ、古紙、ペットボトルが分別できるようにごみの分類別に箱を常備し、常に分別を意識してごみを出すことができるようにする。分別されたものが、何にどれくらい再生されるのか箱に明示する（図や数量など）。そうすることで、ごみを減らせたという実感を持つことができるだろう。学習したことを社会科の時間内で完結させてしまうのではなく、普段の学校生活でも意識していくことで、今までは「ごみを出す」という意識だったが、「ごみは分別して捨てる」という意識に変わることができると思う。このような活動を通して、自分たちがごみを減らすためにできることを実践していこうとする意識を高めたい。

#### (2) 自分たちの生活とのごみ処理の結びつきを実感できる調べ学習の工夫

子供たちが自分たちの身の回りにはリサイクルされたものが数多くあること、そしてその取組がごみを減らすことにつながっていることを理解するには、何より自分が普段出しているごみとリサイクルされて再生された物を結びつけることが必要である。そこで、本時では、ごみがリサイクルされることで何に生まれ変わるのかを、実際にごみを分別しながら調べていく活動を取り入れる。グループ毎に1つの袋に可燃ごみ以外のごみ（ペットボトル、びん、かん、乾電池、粗大ごみ）を入れたものと分別用の空き箱を配る。それらのごみが何に再利用されたり再生されたりするのかを映像資料からグループで調べる。そして、ごみを分別しそれぞれ空き箱に入れ、再生された物や再利用されたものを空き箱に示していき、簡単なリサイクルの流れを実践する。単に自分の家や学校での分別を思い出させるだけではなく、調べたことをもとに実際にごみを分別し、再生されたものをまとめることで、子供たちは、普段自分たちが出しているごみと再生されたものつながりを感じ取ることができるだろう。以上の活動から、身の回りにはリサイクルしたものが多く存在していることに気づき、リサイクルすることでごみを減らし、資源を節約することができることに気付かせていきたい。

9 本時の指導

(1) 目標

- 資源物や粗大ごみなどのリサイクルについて調べることを通して、ごみの再生・再利用の取組が資源の有効利用になっていることについて考える。 (思・判・表)

(2) 展開

時配	学習活動と内容	○教師の指導と支援 ◆評価	資料
5	1 清掃工場で処理できないごみについて話し合い、学習問題の確認をする。 ・ 不燃ごみ、粗大ごみなどがあったよ。	○ ごみの行方を振り返らせ、清掃工場で処理していないごみについて掲示物で確認させる。	○ 前時までの掲示物
	可燃ごみ以外のごみはどうなるのだろうか。		
5	2 どうなるのか予想する。 ・ ゴミは埋められる。 ・ リサイクルされる。 ・ 壊されたり粉々にされたりする。	○ 可燃ごみを燃やした灰が最終処分場に埋め立てられたことを想起させる。 ○ リサイクルされたり粉々にされたりするとごみはどうなるのかという点についても予想させる。	
15	3 グループで映像資料から可燃ごみ以外のごみの処理方法を調べ、実際にごみを分別して再生されたものをまとめる。 ・ かんやびんは再利用されていた。 ・ 粗大ごみは見えそうなものは直していた。 ・ ペットボトルはランドセルになっていた。	○ 可燃ごみ以外のごみはすべて新浜リサイクルセンターに運ばれることを確認する。 ○ ごみが入った袋（ペットボトル、かん、びん、乾電池、粗大ごみ（写真））と空き箱を各グループに配る。 ○ 分別したごみはそれぞれ空き箱に入れさせ、何に再生されたか空き箱に書かせる。 ○ 処理のされ方で気づいたことをノートに書かせる。 ○ ごみの種類によって、処理のされ方が違うことに気付かせる。	○PC ○ごみが入った袋 ○空き箱
10	4 ごみをリサイクルすることの良さ大変さを新浜リサイクルセンターの山根さんの話から考え、ノートに書く。 ・ ごみを減らすことができる。 ・ 資源を節約することができる。 ・ 分別がきちんとされていないと手作業でなおしている。	○ 「リサイクル」の意味を確認させる。 ○ 新浜リサイクルセンターの山根さんの話からリサイクルすることの良さと大変さを読み取るように声掛けする。 ○ 今後の学習につなげるために、可	○大型テレビ ○PC



7	5 本時の学習をまとめる。	<p>燃ごみ以外のごみは手作業で確認していることをおさえる。</p> <p>○ 分別したごみに「リサイクルマーク」がついていることを確認させる。</p> <p>◆ ごみの再生・再利用の取組が資源の有効利用になっていることについて考える。</p> <p>＜ノート・発言＞（思・判・表）</p> <p>○ 本時した学習したキーワードをもとにまとめを書くように声掛けする。</p>	
<p>可燃ごみ以外のごみは、分別されて新浜リサイクルセンターに運ばれ、リサイクルや再利用できるように処理されている。</p>			
3	6 本時の感想を書く		

(3) 資料

千葉市学校教育情報ネットワーク Cabinet 「リサイクルセンターのしくみ」

[http://chiba.cabinet-cbc.ed.jp/data/db/06-07syakai/003\\_recycle/index.html](http://chiba.cabinet-cbc.ed.jp/data/db/06-07syakai/003_recycle/index.html)